

下村兼史 生涯の記録

公益財団法人 山階鳥類研究所 2017年3月21日 更新

西暦	年齢	経歴など	主な撮影歴訪地と撮影鳥種
1903年(明治36年)		2月14日、兼二(ケンジ) 佐賀県佐賀市水ヶ江町で生まれる [1930年代中頃に兼史(ケンジ)と改名]	
1920年(大正9年)	17	慶応義塾大学文学部予科に入学	
1921年(大正10年)	18	父の友人の債務保証が焦げつき、下村家は破産 10月、病気のため予科を2年生で中退し帰郷	
1922年(大正11年)	19	雑誌「コダケリー」に載った野鳥撮影法に興味をそそられていた 1月5日、庭の木のかわセミを撮る。兼史18歳。日本での野鳥の生態写真の嚆矢となる歴史的な原板第1号誕生 5月3-8日、銀座資生堂で開催された第二回懸賞入選印画展覧会に、兼史の三等一席に入選した「河畔の暮(シチメンチョウ)」が公開展覧される	佐賀県(カワセミ)
1924年(大正13年)	21		佐賀県5-6月(ヒメウイナ、サシバ)
1925年(大正14年)	22		佐賀県川上川3月(カワガラス) 福岡県筑後川10月(シギ・チドリ)
1926年(大正15年)	23	日本鳥学会に入会 福岡市西職人町 70へ転居(1925年後半の可能性あり) ハマシギの大群は、1922年の原板第1号カワセミから数えて原板第601号となる 12月23日、黒田長禮別邸で開かれた福岡鳥の会行事にて「野生鳥の習性写真十点供覧及説明 上村兼二氏」	福岡県筑後川口;今津湾(キアシシギ、ツルシギ、ハマシギ)
1927年(昭和2年)	24	鹿児島県荒崎の鶴の渡来地を初めて訪れる 7月23日黒田別邸で開かれた福岡鳥の会行事にて「写真供覧 野生鳥習性写真数枚 福岡 下村兼二氏」	鹿児島県荒崎 2月12-17日 福岡県筑後川口;今津湾(シギ・チドリ、ツクシガモ、クロツラヘラサギ)
1928年(昭和3年)	25	2月4日、黒田別邸に於ける福岡鳥の会行事で「供覧 阿久根の鶴に関する実写10数枚 下村兼二氏」 5月25日、学士会館(東京神田)に於ける日本鳥学会(第31回例会)にて東京で初めて下村の鳥類生態写真が供覧される 農林省鳥獣調査室長・内田清之助を訪ね、有明海・荒崎で撮った写真を持参して見せらる 12月、天皇に「鶴渡来地ニ於ケル鳥類生態写真」一冊を献上	鹿児島県荒崎 1月14-24日(ナベコウ、ナベヅル、マナヅル、クロツラヘラサギ、オオハクチョウ) 佐賀県神埼 2月(ミヤマガラス) 福岡県福岡 5月(カササギ) 福岡県今津湾 5月(アマサギ) 熊本県球磨郡 5月(イワツバメ) 兵庫県出石郡 7月(コウトリ) 鹿児島県荒崎 11月17日~翌年2月25日 九州霧島山 12月下旬
1929年(昭和5年)	26	内田は財団法人啓明会に働きかけ、兼史の2年間の写真撮影費用と写真集出版費用を提供してくれるようかけ合い、受理される 6月、須走の米山館を宿泊先として野鳥の繁殖生態を撮影開始	九州霧島山 2月(エナガ) 富士山麓須走 6月(ジュウイチの雛を育てるオオルリ、ノゾコ、ピンズイ) 鹿児島県荒崎 11月26日~翌年2月28日
1930年(昭和5年)	27	3月、日本初の野鳥生態写真集となる「鳥類生態写真集」第1輯を出版 須走で前年に続いて繁殖期に撮影する 9月、農林省畜産局畜政課鳥獣調査室に「鳥獣調査ノ事務ニ従事スル」嘱託員として勤務	瀬戸内海寶島 4月(シロエリオオハム) 富士山麓須走 5-6月(トラツグミ、ヨタカ、ホオアカ、ツツドリ)の雛を養うセンダイムシクイ、サンコウチョウ 福岡県筑後川口9月(ツバメチドリ)
1931年(昭和6年)	28	5月、「鳥類生態写真集」第2輯を出版。啓明会の資金援助が終わる 三越で写真展を開催する 5月、日本鳥学会例会(第40回)で「鳥類生態写真の撮影に就て」を講演、写真を供覧 東京市滝野川区西ヶ原町(現 東京都北区西ヶ原)のアパートで生活する 農林省嘱託として日本各地に出かけ、主に天然記念物、希少種の鳥を撮り続ける	埼玉県越ヶ谷 5月(シロコバト) 千葉県新浜 5月(ゴイサギ、コサギ) 富士山麓 6月(キビタキ、ホオアカ、ノビタキ、メジロ、サンコウチョウ) 富士山三合目-御中道 7月(カヤクグリ)
1932年(昭和7年)	29	5月、日本鳥学会創立第20周年記念会にて鳥類生態写真14枚、天然色透明陽画9枚を出品、陳列 7月中-8月、エトロフ島へ 8月、佐渡へ 12月2日 チーフ丸で小笠原諸島へ	エトロフ島 7月中-8月(ウミガラス、オオセグロカモメ) 佐渡 8月19日(トキ) 八丈島12月3日(鳥島)-小笠原父島-兄島-父島-聳島-父島(鳥島)-八丈島 12月22-23日
1933年(昭和8年)	30	4月-5月下、再度小笠原諸島を訪ねる 5月31日/8月1日、佐渡で巣にいるトキの雛の写真を日本で初めて撮る 7月中-8月、樺太へ 光子と結婚	小笠原諸島4月-5月下 佐渡 5月下-6月初(トキ) 樺太タライカ湖 7月中-8月(シマアオジ、ツメナガセキレイ) 青森県小湊 12月(コクガン)
1934年(昭和9年)	31	2月、長男洋治、生まれる(後に洋史と改名) 5月、清橋幸保、高田武雄と3人で三宅島へ行く 6月、北千島パラムシル島へ。日本で繁殖しないシギなどの繁殖生態写真の撮影と山階芳彦博士の依頼で学術標本採集を行う	三宅島5月中[5月11日三本岳] (アカコッコ、イイジマムシクイ、ウチヤマセンニユウ、カンムリウミスズメ) 北千島6月中(ハマシギ)
1935年(昭和10年)	32	4月、奄美大島へ 6月、再びパラムシル島を訪ねる。サケマス処理場で働く人々や港の写真、野鳥の繁殖生態を撮る 10月16日~11月30日「万国自然写真展覧会」が大英博物館で開かれる。日本から9名の50点(内、兼史27点)が出品された この写真展覧会での優秀作を収録した写真集「Nature in the Wild」が刊行され、日本からの出品では、兼史の写真4点(トラツグミ、センダイムシクイとツツドリ、ルリカケス、ナベヅル)のみが選出掲載された	奄美大島 4月10-25日(アマミノクロウサギ、ルリカケス) 北千島 6月中-7月下(タカバシギ、ヒバシギ、シロハラトウゾクカモメ)
1936年(昭和11年)	33	4月、長女友乃、生まれる	秋田県御物川原 5月(ケリ) 御蔵島 7月
1937年(昭和12年)	34	6月、「四国に於ける八色鳥の繁殖地」を日本鳥学会例会(第58回)で講演、写真を供覧する 8月、御蔵島を再訪する	埼玉県鷲山 4月 高知県 6月13-16日(ヤイロチョウ) 御蔵島 8月12-13日
1938年(昭和13年)	35		千葉県新浜 3月(カモ) 秋田県八幡平 6月(クマガラの撮影を試みる)
1939年(昭和14年)	36	農林省鳥類調査室を退職 5月、理研科学映画(株)に内田の轉じて入社	東京都練馬区三宝寺池 6月(水鳥)
1940年(昭和15年)	37	6月、富士山麓須走にて托卵習性の映画撮影にとりかかる(1年目) 映画「或日の干瀆」を製作。第2作にして文化映画の監督として一躍名を上げる秀作と評価された作品	千葉県新浜 1月20日(サカツラガン) 富士山麓須走 6月
1941年(昭和16年)	38		富士山麓須走 5-6月
1942年(昭和17年)	39	5-6月、富士山麓須走(托卵習性の映画撮影3年目)。ジュウイチ托卵の瞬間を初めて動画フィルムに記録する	千葉県新浜 4月2日or 20日(サカツラガン) 長野県南木村九十九谷 4月9日(チョウゲンボウ) 秋田県花館村玉川原 5月(インシギ) 富士山麓須走 5-6月

下村兼史 生涯の記録

公益財団法人 山階鳥類研究所 2017年3月21日 更新

西暦	年齢	経歴など	主な撮影歴訪地と撮影鳥種
1943年(昭和18年)	40	11月、次男紀夫、生まれる	鹿児島県荒崎 1月25日-2月25日(タゲリ、タンチョウ)
1945年(昭和20年)	42	8月、理研科学映画(株)が解散のため解職	
1946年(昭和21年)	43	東宝教育映画部に移る	
1947年(昭和22年)	44	東映製作所へ転じる 理研(社名変更)に戻る	鹿児島県荒崎 11月20日-12月3日
1948年(昭和23年)	45	東宝教育映画に招かれる	鹿児島県荒崎 1月25日-3月1日(ヘラサギ) 鹿児島県荒崎 12月11日~翌年1月15日
1949年(昭和24年)	46	東映製作所で映画を製作 東宝教育映画で映画を製作	鹿児島県荒崎 6-7月(タマシギ、ヨシゴイ)
1950年(昭和25年)	47		鹿児島県荒崎 2月26日 鹿児島県壱島 4-6月
1951年(昭和26年)	48		鹿児島県荒崎 7-8月(ノバン); 10月19日-12月29日
1952年(昭和27年)	49	5月、鳥類生態写真および映画の撮影を通じて鳥学に貢献したことで、日本鳥学会創立40周年 昭和27年度総会席上で表彰状を受ける	
1953年(昭和28年)	50	自主製作(奥商会配給)で製作	
1954年(昭和29年)	51	新理研映画で製作	
1955年(昭和30年)	52	日映科学映画で製作	
1956年(昭和31年)	53	東映教育映画部で製作	
1957年(昭和32年)	54	5月、日本野鳥の会・カメラ毎日共催の野鳥生態写真展に下村はノゴマ(大雪山)、ハイタカ、ジュウイチの雛を養うコルリ、コルリ、ノスリ(以上富士須走)の5作品を出展	
1959年(昭和34年)	56	生物映画研究所で製作参画	
1966年(昭和41年)	63	日本シネセルに乞われ映画「特別天然記念物ライチョウ」の製作に取り組む(翌年完成、遺作となる)	
1967年(昭和42年)	64	第22回毎日映画コンクールに於いて、数々のすぐれた生物記録映画を永年にわたり製作した功績により、特別賞が贈られる。 4月27日没	